

北区の部屋だより

第61号

2014年8月



刊行物登録番号 25-2-070

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台 1-2-5 ☎03-5993-1125 平成 26 年 8 月発行

北区ごぼれ話 第60回

二つの村の「村明細帳」 ～亀戸村から浮間村をみる～



江戸時代の村の様子を知る上で、よく村明細帳むらめいさいちようという帳簿が利用されます。これは「明細書上めいさいかきあげ」、「村方差出帳むらかたさしだしちよう」などとも呼ばれ、幕府直轄領で代官が交代するときや、幕府巡見使の廻村の際に作成され、提出されました。村明細帳の作成にあたっては、領主・代官よりあらかじめ雛形が示されて、村ではそれに沿うかたちで記載しました。そのため、記載項目等は、雛形に規定されていたと理解できます。

北区で村明細帳といえば、享和4年（1804）2月に作成された浮間村の「明細書上之事めいさいかきあげのこゝと」が広く知られています。その作成目的は定かではなく、『北区史資料編近世2』では、単に「幕府代官に提出したと思われる村明細帳」と解説されていますが、この村明細帳、ひょんなところから、その作成目的を知る手掛かりを得ることができました。

それは全く個人的に読んでいた武蔵国葛飾郡亀戸村むさしかくせんかめいど（現・江東区亀戸）の村明細帳なのですが、文化2年（1805）に作成された亀戸村の村明細帳は、先に示した浮間村のものと比べ、記載項目からそれが記されている順番まで、非常に酷似、いやほとんど一致しているのです（具体的な記載項目や順番等については、『北区史資料編近世2』に収録されている「明細書上之事」〈浮間村 黒田家文書〉をご覧ください）。先述の通り、村明細帳が雛形に規定されるということを考えれば、この二つの村の明細帳は同じ雛形に沿って作成された村明細帳であると理解できます。このことは、享和4年（改元の年であり文化元年）と文化2年という作成年代を考えても納得できるでしょう。そして、亀戸村の明細帳には、関東郡代名代として勘定組頭および勘定方の役人が村々を巡見するので明細帳を作成したと、その作成目的について記しているのです。それならば、浮間村の「明細書上之事」も同様に、勘定組頭および勘定方の村々巡見に際し作成されたものと考えて良いのではないのでしょうか。まだ、推測の域を出ない部分もありますが、概ね間違っていないと思っています。

今回のことはたまたまかも知れませんが、北区のことだけではなく、様々な地域の事例を見ていくことが、北区という地域を理解する上で非常に重要であることを改めて思い知らされた次第です。ちなみに、村明細帳の内容等については、それはそれで面白いので、また、次々号で紹介します。

【北区の部屋・地域資料専門員 保垣孝幸】



浮間の桜草

今月の展示



テーマ：北区の学童疎開

— 70年目の夏に振り返る —

期間：平成26年7月25日（金）～8月27日（水）

場所：「北区の部屋」展示コーナー

昭和19年（1944）夏、東京で学童疎開が本格的に開始されました。ちょうど70年前のことです。

今回は、かつて、北区の平和祈念事業のために作成された、学童疎開についてのパネルを再び展示します。いつの時代も、どこの国でも、おとなたちの戦争の犠牲になるのは子供たちです。この夏、もう一度、かつての王子区や滝野川区の子どもたちが、戦争中に体験した苦難について、振り返ってみてはいかがでしょうか。



北区政策提案協働事業「映像アーカイブによる街おこし」ワークショップ



ご協力ください！

映画をつくろう！

— 映画づくりを通して街と人と自分が見えてくる2日間 —

日時：平成26年9月6日（土）・7日（日）の2日間

午前10時～午後5時

場所：中央図書館 3階 会議室

講師：街づくり・フロンティア21 高橋克三氏

対象：16歳位～29歳位で全日程参加できる方

定員：12名（多数抽選）

締切：平成26年8月20日（水）必着

申込方法：往復はがき、またはEメール

申込先：〒115-0045 北区赤羽1-7-9 赤羽METSビル7F

街づくり・フロンティア21

Eメール：info@frontier21.jp.net

※詳しくは、街づくり・フロンティア21のホームページ

または北区ニュース8月1日号をご覧ください。

<http://www.frontier21.jp.net/>

ご自分のスマホ、デジカメを使って映画を創ります。

昭和60年（1985年）以前に撮影されたと思われる、北区が映っている8ミリ・16ミリフィルムを探しています。見つかった北区の映像はDVD変換後、図書館で公開していきます。

北区政策提案協働事業「映像アーカイブによる街づくり」とは、失われつつある北区の昔の風景などを発掘・公開し、地域の活性化に結びつけることを目的に地域団体（フロンティア21）と区（図書館・博物館）が協働で行う事業です。



北区図書館活動区民の会・地域資料部企画・運営

歴史講演会

北区の鉄道遺産群を訪ねて

— 一須賀線・北王子線廃線跡と王子駅周辺 —

日時：平成26年9月13日（土）午後2時～4時

場所：中央図書館 3階 ホール

講師：鉄道総合技術研究所 おのだしげる 小野田滋氏

定員：50名（抽選、区内在住・在勤の方優先）

締切：平成26年8月26日（火）必着

詳しくは北区ニュース8月10日号をご覧ください

内容：北区の産業発展と共に敷設され、役割を終えた専用線の廃線跡と、かつての専用線の起点だった王子駅および周辺の歴史を含め、区の鉄道遺産を紹介いたします。

申込方法：往復はがきに講座名、郵便番号、住所、氏名（ふりがな）、年齢、電話番号（Fax番号）、在勤の方は勤務先を記入し下記へお申込みください。

申込先：〒114-0033 北区十条台1-2-5

中央図書館事業係

TEL03-5993-1125

Fax03-5993-1044

北区の部屋だより

第62号

2014年9月



刊行物登録番号 25-2-070

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台 1-2-5 TEL03-5993-1125 平成 26 年 9 月発行

北区こぼれ話 第61回

戦後占領期の 秘密情報機関を探す



「占領軍接收時の旧東京第一陸軍造兵廠本部（現在の中央公園文化センター）」

北区立中央図書館に、福島鑄郎編著『GHQ 東京占領地図』（雄松堂出版）という資料があります。昭和 23 年（1948）6 月に GHQ が発行した地図を復刻したものです。それを見ると、現在の中央公園文化センターなど（戦前の東京第一陸軍造兵廠跡）の位置には Army Security Agency と Tech intell Det という二つの機関の名が示されています。Army Security Agency（ASA）の直訳は、米陸軍保安司令部です。もう一つの Tech intell Det の Det は派遣隊や分遣隊という意味ですので、技術情報派遣隊といったところでしょう。

ところで、アメリカ政府には、機密文書を 50 年後に公開するという原則があります。外交上の密約文書や、CIA（中央情報局）の人物調査ファイルも例外ではありません。民主主義の発展のためには、歴史の検証が不可欠だという意識が、この制度の根底にあります。

CIA の文書を用いた日本現代史研究のうち、手軽に読めるものとしては、有馬哲夫著『大本営参謀は戦後何と戦ったのか』（新潮新書）や、湯浅博著『歴史に消えた参謀 吉田茂の軍事顧問 辰巳栄一』（文春文庫）などがあります。それらの本の中には、Itabashi（板橋）の陸軍造兵廠跡に占領軍の情報機関があり、その指導の下で、旧日本軍の参謀たちが、様々な情報活動をおこなっていたことが書かれています。さきほどの地図で確認すると、板橋区加賀から北区十条台二丁目辺りに位置した東京第二陸軍造兵廠の跡には、Kanto MG 2nd Military Arsenal とあります。Kanto MG は占領軍の関東軍政部で、2nd Military Arsenal は旧日本軍の第二造兵廠を指します。関東軍政部は、東京神奈川以外の関東地方を管轄した占領軍の軍政機関であって、情報機関ではありません。それに、第二造兵廠跡の多くの土地は、戦後、早い時期に接收を解除されたはずですが。そのため、造兵廠跡の情報機関とは、中央公園文化センター辺りにあった前述の二つの機関のことだろうと考えてきました。しかし、それがなぜ板橋にあったとされ、十条や王子と表記されないのだろうと疑問に思っていました。

そこで、調べてみると、確かに板橋区内に占領軍の情報機関があったことが分かってきました。その名は、CIC（対敵諜報部）です。現在の板橋第五中学校の位置です（佐藤洋一著『図説占領下の東京』河出書房新社など）。戦前、ここには、陸軍兵器学校板橋分校（昭和 15 年 7 月までは陸軍工科学学校板橋分校）がありました（『兵器技術教育百年史』工華会）。東京第二陸軍造兵廠の一角です。『板橋区史』（資料編 4 近・現代）によれば、昭和 26 年、朝鮮戦争下で、第二造兵廠跡地の再接収の情報が流れた時、跡地に入っていた学校や研究所、病院、企業などが再接収反対の運動を展開しました。その関係の資料にも、CIC の名が出てきます。

この辺りは、埼京線や石神井川に近い静かな文教地区です。戦後史の裏側に係わる秘密情報機関が、こんな身近な場所にあったことに驚かされます。

【北区の部屋・地域資料専門員 黒川徳男】

今月の展示



テーマ：北区の昔ばなし

期間：平成26年8月29日（金）～9月24日（水）

場所：「北区の部屋」展示コーナー

長いあいだ地域で語りつがれてきたさまざまな伝承は、貴重な文化遺産の一つです。今回の展示では、そんな北区に伝わる民話や伝承、伝説などを紹介します。「秋の夜長」に、北区の「昔話」はいかがですか？

中央図書館主催 公開歴史講座

汽車が走る！－鉄道と区民の北区史－

日時：平成26年10月18日（土）

午後2時～4時

場所：中央図書館 3階 ホール

講師：北区の部屋 黒川徳男地域資料専門員

定員：中学生以上50名（抽選）

締切：平成26年10月3日（金）必着



内容：鉄道は、明治の開業以来、沿線住民の生活や街並みを変えていきました。鉄道と区民が織りなした数々のエピソードをご紹介します。

申込方法：往復はがきに講座名、郵便番号、住所、氏名（ふりがな）、年齢、電話番号（Fax番号）を記入し下記へお申込みください。

申込先：〒114-0033 北区十条台1-2-5

中央図書館事業係

TEL03-5993-1125

Fax03-5993-1044

詳しくは北区ニュース9月10日号をご覧ください



探しています！

ご当地盆踊り



夏になると北区の部屋に、盆踊りの音源や振付のお問い合わせがあります。北区の部屋では、現在、下記音源を所蔵していますが残念ながら振付のわかる資料がありません。

- ・北区音頭（北区新聞社）
- ・しもふり音頭（霜降たちばな会）
- ・王子小唄（東京の民謡／コロンビアミュージックエンターテイメント）
- ・飛鳥山音頭（同上）

北区内の町内会などで踊られている、地元の音頭などの音源や振付の図解資料なども集めています。著作権がクリアされたものでしたらなんでも結構です。ご提供をお待ちしています。



「赤レンガパンフレット」 差し上げています！

北区の部屋には、この図書館の赤レンガについてのお問い合わせが数多くあります。

そこで赤レンガ図書館の歴史がわかる小冊子「赤レンガ棟の歴史と見どころ」を差し上げています。赤レンガ図書館に興味のある方は北区の部屋及びレファレンスカウンターにお声がけください。

また、北区飛鳥山博物館が本年5月に行ったスポット展示の際に配布した北区のレンガのパンフレットも配布中です。

北区のレンガがわかりやすく解説されています。

（スポット展示は終了しています。）



北区の部屋だより

第63号

2014年10月



刊行物登録番号 25-2-070

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台 1-2-5 ☎03-5993-1125 平成 26 年 10 月発行

北区こぼれ話 第62回

享和4年(1804) 「明細書上之事」にみる江戸時代の浮間村

前々回（北区の部屋だより第 61 号）に引き続き浮間村の村明細帳のお話しです。浮間村の村明細帳は、検地の年代および村高の記述から始まり、村の規模、最寄りの市場（いちば）、村の土壌や農作物の種類、採取できる草木鳥獣の類など全 52 ケ条にわたって詳細に記されています（詳しくは『北区史資料編近世 2』をご覧ください）。

例えば、浮間村の土壌については「真土へな交り」、すなわち農耕に適した良質な土に、若干粘土が混じっていた土で、荒川沿いの村であることから毎年出水被害を受けていたと記しています。村の耕地は全て畑で、五穀（米・麦・粟・豆・黍）のほかに「芥子」を作っていました。特段、村で採取できる草木や鳥獣、砂石の類はなく、古城や旧跡、名所などについても「無御座候」と記しています。村としての基本的な事項も記されており、当時の浮間村には 55 軒の家があり 271 人（男 135 人、女 133 人、宗教者 3 人）が住んでいました。2014 年 9 月現在、浮間地区には 10,830 世帯、22,986 人（男 11,456 人、女 11,530 人）の人々が暮らしていますので、およそ 200 年の間に 80 倍ほど住む人が増えたこととなります。このほか、長寿の者として 80 歳以上の男女 5 名の名前が書き上げられています。長寿者は幕府の褒賞対象となっており、村明細帳ではこうした村の長寿者を書き上げさせることもしていました。

このように、村明細帳とは当時の「村勢要覧」ともいえる大変便利な史料なのですが、実はその利用に際して一つ大きな問題があります。それは前々回のこぼれ話でも記しましたが、この史料が領主・代官の交代や、幕府巡見使の派遣の際に作成され、提出されたものだということです。そもそも、村明細帳は当時の支配者が村の負担能力などを知るために作成させたものなので、村としては劣悪な生産条件や過酷な環境を強調し、年貢諸役の負担をできる限り低く抑えようという意図のもとに記されたと理解されています。すなわち、ここに記されている様子は必ずしも実情を示すものではなく、作為的に貧窮の村であることが強調されていたかもしれないのです。例えば、史料に「年々出水」とありますが、本当に浮間村が毎年のように出水被害にあっていたかは、改めて別の史料等から確認する必要があるでしょう。

とはいえ、村明細帳は、領主が交代する際にも引き継がれる重要な文書であり、公事出入（訴訟）の際には有力な証拠書類としての位置を占めていました。したがって、村側の作成意図に考慮しつつ見ていくのであれば、江戸時代の村の様子を今に伝える、極めて重要な史料であることに間違いはありません。ご興味のある方は、ぜひご覧になってみてください。



【北区の部屋・地域資料専門員 保垣孝幸】

今月の展示



北区図書館活動区民の会・地域資料部会企画展示

テーマ：北区王子の引込線を偲ぶ

～須賀線と北王子線～

期間：平成26年9月26日（金）～10月22日（水）

場所：「北区の部屋」展示コーナー

今月は北区図書館活動区民の会・地域資料部会が企画運営する展示を行います。9月13日（土）に「北区の鉄道遺産を訪ねて～須賀線・北王子線と王子駅周辺～」と題して中央図書館で開催された歴史講演会に関連した展示で、過去に廃線になった北区の引込線の軌跡を紹介します。

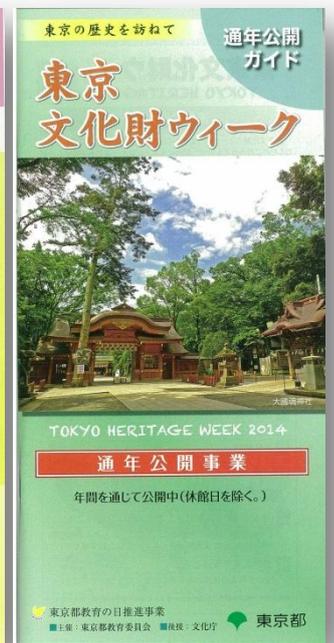
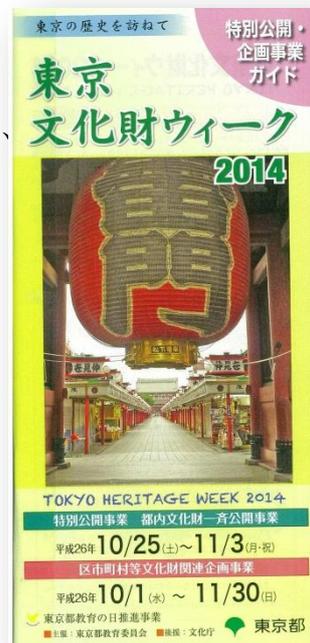
東京文化財ウィーク2014



東京都教育委員会は11月3日文化の日を中心に、都内全域の文化財の公開や文化財に関わる様々な事業を実施し、都民の皆さまに文化財に触れる機会や、文化財の保護、管理に様々な形で参加できる『東京文化財ウィーク2014』を開催しています。

中央・滝野川・赤羽図書館で、ガイドブックを配布中です。北区の催し物や通年公開の資料の情報等も掲載されていますので、ぜひご覧ください。

（ガイドブック配布は在庫が終わり次第終了です）



北区内の会社の社史・産業団体史を集めています！

中央図書館と北区図書館活動区民の会・地域資料部会が協働で、北区で活動する会社や工場、団体などの発行する資料を北区の地域資料として収集しています。ぜひとも北区関連の社史や周年誌などのご寄贈をお願いします。



【問い合わせ先】

〒114-0033 東京都北区十条台1-2-5

北区立中央図書館（地域資料担当または北区の部屋）

電話 03-5993-1125 Fax03-5993-1044



北区の部屋だより

第64号

2014年11月



刊行物登録番号 25-2-070

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台 1-2-5 ☎03-5993-1125 平成26年11月発行

北区こぼれ話 第63回

愛される煙と嫌われる煙 —王子町歌に想う—



秋が深まってくると、テレビのニュースでPM2.5のことが報じられるようになります。先日の北京国際マラソンでは、マスク姿のランナーが現れるなど、選手たちにとって、手強い敵は大気汚染だったようです。現代では嫌われものの煙ですが、歴史をひも解けば、昔はむしろ良いイメージだったことが分かります。古代の日本では、家々からたち昇る炊事の煙が、民の豊かさの基準、善政の象徴と考えられていました。『日本書紀』における、仁徳天皇の仁政についての記述に、民家の煙の話しが出てくることは有名です。

煙と言えば、今から約100年前に作られた「王子町歌」でも煙が重要なモチーフになっています。大正時代あたりの歌です。その歌詞は、今日の感覚からすれば、かなり衝撃的です。要約すれば、王子は東洋一の工業地であり、黒煙を吐く煙突が林立して、空飛ぶ鳥も洗濯物も、すすけて黒くはなるが、国力や富を増進するためだということです。そして、愛する町を世界の町にしようと歌っています。町歌は、住民たちの自己認識を歌った、言わば自画像のようなものです。当時、燃料の主力は石炭でしたから、さぞや、王子の空には、もうもうたる煙があがっていたことでしょう。今でこそ、鳥がすすけて黒くなったら、深刻な環境汚染だと考えますが、そこは100年前です。煙を発展の象徴としてとらえ、むしろ、鳥がすすけることを誇らしげに歌っていたのです。

時は移り変わり、新興国の産業発展と、^{しんこうこく}国境を越えた大気汚染との間の矛盾は、世界的問題になっています。そうした中で、王子町歌は、反面教師的な言葉として、私たちの心に響いてきます。やはり、空飛ぶ鳥の羽がすすけることを誇りに思っ**て**はいけないのです。

【北区の部屋・地域資料専門員 黒川徳男】

王子町歌

- 一、飛鳥の山の山桜 花いく度びか咲き散りて
御代(みよ)の光のさすままに 数まさり行く人と家
荒れにし郷(さと)も今やはや 東洋一の工業地
ああわが王子 わが王子
- 二、林と立てる煙突の 吐くや不断の黒煙り
空飛ぶ鳥も羽すすけ 掛け干す衣(きぬ)も黒めども
国の力もはた富も これによりてぞいや増さん
ああわが王子 わが王子
- 三、力と心会(あわ)せなば 世に何事かならざらん
石神井川の水絶えず つとめし我等四万人
愛する町をこの町を 世界の町とならしめん
ああわが王子 わが王子
(芦田正次郎・工藤信一著『北区史跡散歩』学生社より)



「飛鳥山より王子製紙会社を眺む」
(勝山英三郎画、明治24年、北区の部屋所蔵)
煙突や煙が大きく描かれています。

今月の展示



テーマ：埼京線！—最強の謎—

期間：平成26年10月24日（金）～11月26日（水）

場所：「北区の部屋」展示コーナー

JR埼京線の謎について展示いたします。
「そもそも、埼京線という線路は存在しない」
「はじめは私鉄だった」「なぜ、もっと長くできないのか」など、埼京線をめぐる秘密を解き明かします。

埼京線開業記念のヘッドマーク

（北区の部屋所蔵）

Q.鳥がくわえている花は？ A.サクラソウ



活動弁士と訪ねる記憶への旅VOL. 2 ～80年前の北区とアニメ～

北区政策提案協働事業

映像アーカイブによる街おこし

失われつつある北区の昔の風景や暮らしを発掘・公開することを目的に区と協働で行うイベントです。

日時：平成26年11月29日（土）

午後2時から4時

場所：北とぴあ6階 プラネタリウムホール

内容：80年前のアニメや北区の映像を、語りと音楽で楽しみます。

上映予定作品：

アニメ「日本一桃太郎」「動物オリンピック」

（昭和3年）

映像「第一回王子区会議員選挙」「子どもの風景」など

出演：活動弁士 澤登 翠氏

サイレント映画ピアニスト 柳下美恵氏

定員：120名（抽選）

申込方法：往復はがきまたはホームページで。

締切：平成26年11月14日（金）（必着）

往復はがきには、希望講演会名、郵便番号、住所、氏名（ふりがな）、年齢、電話番号を記入し、返信用表に申込む方の住所・氏名を記入の上、下記へお送りください。（11月1日号北区ニュースにも記事が掲載されます。）

お問い合わせ及び申込先：

〒115-0045 北区赤羽1-7-9 赤羽 Mets ビル7階
街づくり・フロンティア21「活動弁士と訪ねる記憶への旅」係

☎（3903）1171

HP：<http://www.frontier21.jp.net/>

昭和60年（1985年）以前に撮影されたと思われる、北区が映っている8ミリ・16ミリフィルムを探しています。見つかった北区の映像はDVD変換後、図書館で公開していきます。



紹介パンフ配布中

北区政策提案協働事業「映像アーカイブによる街づくり」とは、失われつつある北区の昔の風景などを発掘・公開し、地域の活性化に結びつけることを目的に地域団体（フロンティア21）と区（図書館・博物館）が協働で行う事業です。

北区の部屋だより

第65号

2014年12月



刊行物登録番号 25-2-070

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033 北区十条台 1-2-5 電話03-5993-1125 平成26年12月発行

北区こぼれ話 第64回

江戸幕府の記録はどこに?! ～「旧幕府引継書類」の話～



江戸時代は、それ以前の時代と比べて飛躍的に文書の作成件数が多くなり、まさに「文書の時代」とも称されます。その理由については、さまざまな点が挙げられますが、江戸幕府の官僚機構が整備され文書による意志の伝達、文書の支配が浸透したことも一つの要因であると指摘されています（『古文書解読事典—文書館へ行こう—』、東京堂出版）。こうした江戸幕府の記録類は、幕府が倒壊するなかでその多くが散逸してしまいましたが、いくつかの文書群は新政府の諸機関へと引き継がれ、現在に至っています。その一つが「旧幕府引継書類」と呼ばれる一群の文書類です。

歴史家のあいだでは単に「旧幕」と略されることの多いこの文書群は、南北の江戸町奉行所の文書類が中心で、明治維新後は市政裁判所、さらには東京府庁へと引き継がれ、明治27年（1894）にその保管を東京図書館に依頼されるなかで、現在でも国立国会図書館に所蔵されています。その総数は6,000点以上におよび、両町奉行所の記録以外にも評定所や寺社奉行所、作事奉行などの書類が含まれ、江戸時代の政治や法制、さらには江戸の社会や経済など幅広い分野にわたる重要な内容を現在に伝えています。当然、北区に関する事例も「旧幕」の中で確認することができ、寺社奉行書類にある『吟味伺書進達留』など裁判関係の史料には、北区域で起こった事件の記録なども収録されています。

さて、この「旧幕」、現在では、インターネット環境にあれば自宅のパソコンでも簡単に見られるようになってきました。国立国会図書館のHP（ホームページ）にある「国立国会図書館デジタルコレクション」に入り、史料名で検索*すると、その画像を閲覧できます。かつて『北区史』を編纂していた折には、わざわざ国会図書館に行って、この「旧幕」の調査なども行っていました、それが自宅で簡単にできてしまうようになりました。便利な世の中になったものです。

江戸時代の古文書を見てみたいと思う方は、ぜひ一度アクセスしてみたいはいかがでしょうか。

*「国立国会図書館デジタルコレクション」で「旧幕府引継書類」を見たい場合、「旧幕府引継書類」という文書群名ではなく、「旧幕」に含まれる史料名（例えば、「享保撰要類集」や「吟味伺書進達留」など）で検索する必要があります。

【北区の部屋・地域資料専門員 保垣孝幸】

今月の展示

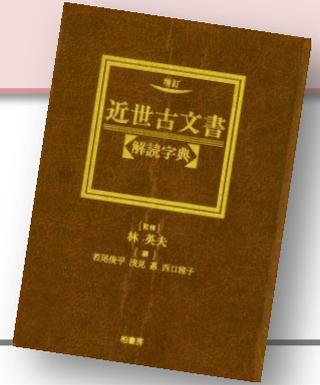


テーマ：古文書入門事始め

期間：平成26年11月28日（金）～12月28日（日）

場所：「北区の部屋」展示コーナー

毎年、ご好評をいただいております北区立中央図書館主催の「古文書講座」（毎年5月～6月に開催）ですが、今回の展示で、辞書の使い方や原稿用紙の書き方、古文書目録の見方など、その内容の一端をご紹介します。



北区図書館活動区民の会企画運営

小学生向けワークショップ

親子で謎解き！中央図書館ナイトツアー

日時：平成27年1月11日（日）

午後4時45分～午後7時

場所：中央図書館3階ホールに集合



誰もいなくなった夜の図書館を大冒険。普段、何げなく利用しているこの場所は、実は……。親子で謎を解きながら歴史の核心に迫る！

対象：区内在住の小学生と保護者
（必ず保護者同伴）

定員：20組（抽選）※初めての方優先

申込方法：Faxまたは往復はがきに講座名、郵便番号、住所、氏名（ふりがな）、年齢、電話番号、（Fax番号）、返信用裏面に申込む方の住所、氏名を記入して、12月24日（水）（必着）まで。

※Fax申込書は各図書館にあります。また北区ホームページでもダウンロードできます。

申込先：中央図書館事業係

〒114-0033 北区十条台1-2-5

電話 03-5993-1125

Fax03-5993-1044

中央図書館「北区の部屋」では、北区の歴史に関わる古い写真を探しています！

皆さんのお宅に、北区に関する古い写真や地図・文書は眠っていませんか？

北区の部屋では、このような資料を地域資料として収集し公開しています。江戸・明治期はもちろん大正・昭和の写真も大歓迎！！地域を知るための大切な資料です。ぜひご協力をお願いします。詳しくは「北区の部屋」地域資料専門員までご連絡ください。お待ちしております。



渡邊肇氏撮影
昭和30年代の
桐ヶ丘団地